

## 鋼管定着工法®

「鋼管定着工法®」は、耐震壁や鉄骨ブレースなどの耐震補強工事で、数多く採用されている「あと施工アンカー工法」に代わる工法として考案されました。既存躯体と補強部との接合部に、鋼管コッターを用いることにより、削溝深さを減少させる事が出来るようになりました。これにより、鉄筋の損傷や鉄骨（SRC 造の場合）への干渉など躯体への影響を軽減できる有効な工法として、また、削溝回数、削溝時間の低減、振動・騒音・粉塵なども低減できるため、より環境に配慮した工法として採用される現場（物件）が増えています。

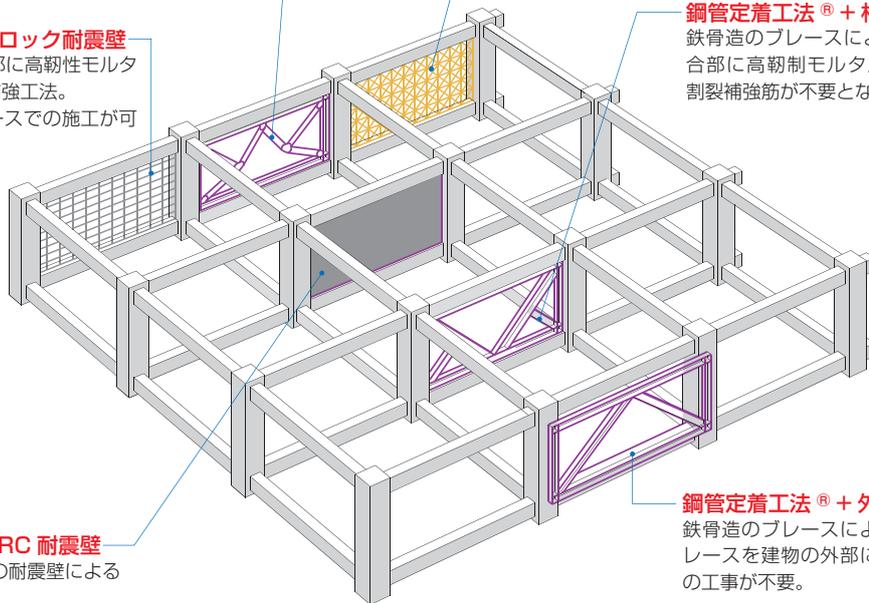
### ■鋼管定着工法®

**鋼管定着工法® + アドバンス制震システム**  
アドバンス制震装置の変位・速度増幅機構がダンパーの性能を最大限に引き出し、地震エネルギーを効率良く吸収する構法。設置数が少なく、良いため、短工期での施工が可能。

**鋼管定着工法® + UFC ブロック耐震壁**  
格子状の超高強度繊維補強コンクリートブロックを組積し、周囲にグラウト材を充填した耐震壁による補強構法。意匠性に優れ、通風・採光が可能。省スペースでの施工が可能。

**鋼管定着工法® + RM ブロック耐震壁**  
RM ブロックを組積し、内部に高粘性モルタルを充填した耐震壁による補強工法。型枠工事を削減し、省スペースでの施工が可能。

**鋼管定着工法® + 枠付鉄骨ブレース**  
鉄骨造のブレースによる補強構法。間接接合部に高粘りモルタルを充填することで、割れ補強筋が不要となり、施工性を向上。



**鋼管定着工法® + RC 耐震壁**  
鉄筋コンクリート造の耐震壁による補強構法。

**鋼管定着工法® + 外付鉄骨ブレース**  
鉄骨造のブレースによる補強構法。鉄骨ブレースを建物の外部に設置する事で、室内の工事が不要。

〔戸田建設のカatalogより抜粋〕

### ■工法の概要

既存躯体と補強部の接合面より、標準で深さ 30mm の円形の溝を削溝した後、鋼管コッターを取り付け、樹脂を充填・固定します。条件付きであれば、仕上げモルタルを残したままの施工も可能です。

